

都市再生整備計画 事後評価シート

山鹿中央地区

平成25年3月

熊本県山鹿市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県	市町村名	山鹿市	地区名	山鹿中央地区			面積	980
交付期間	平成20年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	319	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		基幹事業	提案事業	基幹事業	提案事業	基幹事業	提案事業	基幹事業	提案事業
		当初計画から削除した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> 公園(泉田公園)、地域生活基盤施設(木戸前広場、駐車場、情報板(総合案内板、車両誘導サイン)、高質空間形成施設(西中町京町線、金剛乗寺参道線、裏雨屋小路線、玄小路線、宗方口線、院の馬場線、石丸口線、中町小路線)、高次都市施設(地域交流センター建設事業) 	提案事業	<ul style="list-style-type: none"> 八千代座第2次整備事業(町並みセンター)、まちなみ整備事業(建築物修景整備事業)、共同施設整備事業、商店街ソフト事業、がんばる商店街支援事業、山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業、市街地循環バス運行事業、事業効果分析、八千代座PRビデオ等作成 	削除/追加の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場:新庁舎建設計画に伴い大型の駐車場が併設されることとなったため。(駐車場) ・情報板:市全体でのサイン整備計画を検討後、整備することとなったため。 ・地域交流センター建設事業:施設での収益の発生、住民の利用を制限するなど、整備計画を変更したため。(交付要件に不適合) 	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
新たに追加した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> ・八千代座第2次整備事業(町並みセンター) ・まちなみ整備事業(H21年以降) ・共同施設整備事業、商店街ソフト事業 ・がんばる商店街支援事業(H21年以降) ・商店街空き地空き店舗対策事業(H21年以降) ・市街地循環バス運行事業(H21年以降) ・八千代座PRビデオ等作成 	提案事業	<ul style="list-style-type: none"> ・八千代座第2次整備事業:施設の老朽化が進み移築が困難となり、現状維持の状態を保全することとなったため。 ・まちなみ整備事業:区域外を含めた事業計画へ変更したため。(交付要件に不適合) ・共同施設整備事業、商店街ソフト事業:認定中心市街地活性化基本計画を踏まえ「がんばる商店街支援事業」へ変更 ・がんばる商店街支援事業:イベント実施において収益が発生する事業となったため。(交付要件不適合) ・商店街空き地空き店舗対策事業:補助限度額、補助期間の拡大、収益の発生など既存商店との公平性が保てなくなる可能性があったため。(交付要件不適合) ・市街地循環バス運行事業:区域外の事業が交付対象外となったため。(交付要件に不適合) ・八千代座PRビデオ等作成:認定中心市街地活性化基本計画へ位置づけされていないため。 	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・その他事業(地域交流センター建設、八千代座交流施設前広場等)で補完されるため影響なし(八千代座第2次整備事業) ・名称変更であるため影響なし(共同施設整備事業、商店街ソフト事業) ・関連事業へ位置づけるため影響なし(地域交流センター建設事業、まちなみ整備事業、がんばる商店街支援事業、商店街空き地空き店舗対策事業、市街地循環バス運行事業、八千代座PRビデオ等作成) 			
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度	変更	—	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—	—	—	—


2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
			指標1	八千代座の入場者数	人/年	76,380	H18	82,000					H24
指標2	山鹿市中心市街地の歩行者通行量(8地点合計)(人/8h、平日休日10時～18時の平均)	人/8h	4,426	H19	4,500	H24	—	5,500	○	あり	●	ブラザファイブ再生事業及びさくら湯再生事業、地域交流センター建設事業の他、イベントの実施等により、多様な都市機能が集積した中心市街地の形成が進み、歩行者通行量が増加した。	H25年3月頃
指標3	中心市街地における空き店舗数	店舗	62	H18	25	H24	—	60	△	あり	●	ブラザファイブ再生事業については、世界同時不況の煽りを受け、テナントリーシングが進まなかった。また、中心市街地全体としても、郊外店の影響に加え、商業者の高齢化、後継者問題等の要因により、空き店舗改善が進んでいない。	H25年5月頃

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	中心市街地内の主要観光 施設の利用者数	人/年	147,703	H20	/	—	148,929	/	/	/	八千代座周辺の拠点性の創出、さくら湯・ 温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の 「にぎわい交流拠点」の形成や歴史情緒感 じるまちなみ形成が進み、中心市街地内の 主要観光施設の利用者数が増加した。	なし
	その他の 数値指標2	市街地循環バス利用者数	人/年	6,250	H21	/	—	6,962	/	/	/	プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事 業、地域交流センターの整備、また、イベ ントの実施等による商業活力の創出により、 にぎわいある商店街づくりが進み、中心市 街地へ訪れる人＝循環バス利用者数が増	なし
4) 定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・泉田公園の整備など、地元自治会での意見集約など、住民との協働によるまちづくりを進めることで、地元自治会による公園の清掃活動が実施されている。 ・修景に配慮した整備を行うことで、景観形成に対する意識が向上している。 ・「がんばる商店街支援事業」の実施の中で、泉田公園整備においてフードフェスティバルを開催するなど、各事業の連携による効果が発揮されている。 												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・泉田公園整備における「意見の聴取」 ・「八千代座を考える会」「八千代座審議会」の開催 ・さくら湯再生事業における「検討委員会」の開催 ・市街地循環バス運行における「地域公共交通会議」の開催 ・がんばる商店街支援事業実施に向けた「まちづくり懇談会」の開催 					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	<ul style="list-style-type: none"> ・泉田公園については、自治会による清掃活動が継続されるように、市は後方支援を行う。 ・「八千代座を考える会」や市民を主体とした組織との連携を保ち、八千代座、地域交流センターの活用に向けた取り組みを進める。 ・「地域公共交通会議」を適宜開催し、市民の意見を反映し、利用促進を図る。 ・がんばる商店街支援事業実施においては、懇談会等を通じて今後も商店街、住民との連携による取組みを進める 	
	持続的なまちづくり 体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「八千代座を考える会」「八千代座審議会」(八千代座周辺の活性化に向けたまちづくり活動) ・「各商店街組織・振興会」「泉町フードフェスティバル実行委員会」等 					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	<ul style="list-style-type: none"> ・八千代座の活用促進や周辺施設との連携による賑わいの創出に向けて、まちづくり活動の支援を行う。 ・がんばる商店街支援事業、商店街空き地空き店舗対策事業による中心市街地の活性化に向けて、まちづくり活動の支援を行う。 	

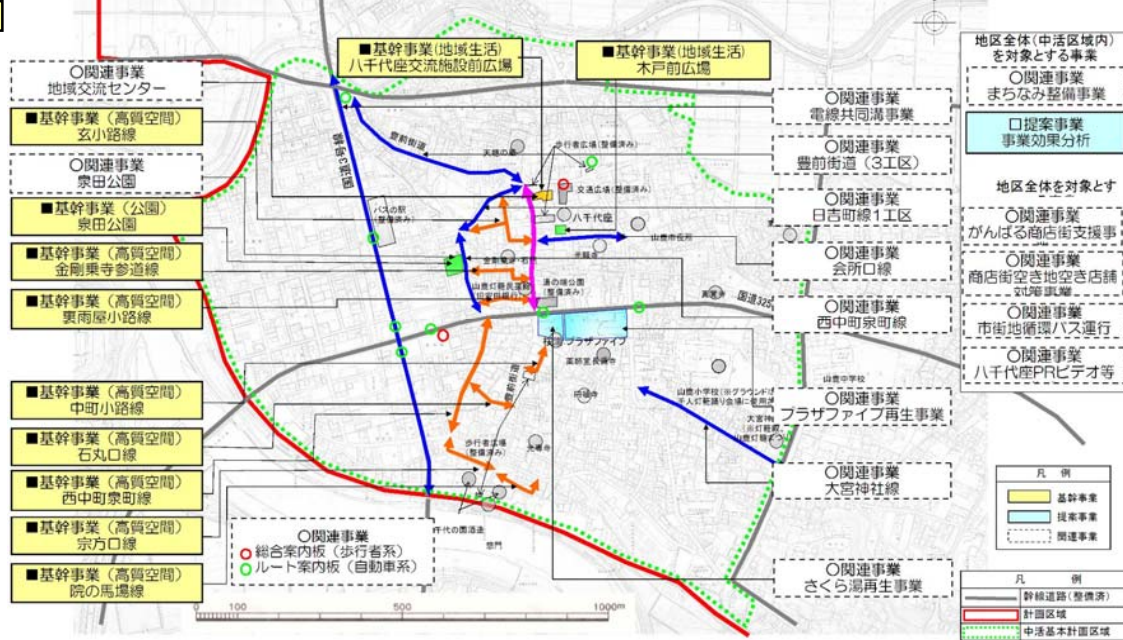
様式2-2 地区の概要

山鹿中央地区(熊本県山鹿市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値			
大目標：八千代座を中心とする豊前街道山鹿温泉界隈の歴史的町並みの魅力を活かした、中心市街地の賑わいと交流のあるまちづくり 目標1: 住民・来街者が集う「にぎわい交流拠点」を形成する。 目標2: 住民・来街者の交通環境と、歴史的環境を活かした住民の居住環境の向上を図る。 目標3: にぎわいのある商店街づくり。	八千代座入場者数	単位: 人/日	76,380	H18	82,000	H24	85,600	H24
	歩行者通行量	単位: 人/8h	4,426	H19	4,500	H24	5,500	H24
	空き店舗数	単位: 店舗	62	H18	25	H24	60	H24




泉田公園






さくら湯再生事業



裏雨屋小路線



宗方小路




金剛乗寺参道線



木戸前広場

地域交流センター



<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「八千代座」周辺やさくら湯・温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の個々の拠点性の高まり、フードフェスティバルをはじめ各種イベントの開催により、人が集い・賑わう場の創出が図られている。特に、今後は観光・文化資源として再生したさくら湯について、八千代座及びその周辺の観光資源と連携したまちづくりを進めることが必要である。 ・道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されている。 ・市街地循環バスの運行により、市民や来街者が容易に中心市街地へ訪れることができ、交通アクセスは向上している。 ・プラザファイブ再生事業については、全体店舗の約80%の充足率でのオープンとなっており、空き床率の改善が必要である。また、商店街においても、郊外店の影響に加え、商業者の高齢化、後継者問題等の要因により、空き店舗改善が進んでおらず、その改善が必要である。 ・都市再生整備計画で整備した施設の利活用やその維持管理が必要となる。また、修景が進んでいく一方で、老朽化した住宅の増加、維持、管理する人の減少と高齢化に対する対策が必要である。(民間建築物の維持管理)
<p>今後のまちづくりの方策(改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が訪れる交流の場、また市民が日常的に買い物やレクリエーションを楽しむ交流の場として、その拠点性を維持するため、商店街関係者、地区住民及び市民や市との連携を進め、観光情報の発信、地域資源の掘り起こしや活用、またイベント等の開催など、人による賑わいの創出を図る。 ・中心市街地への訪れやすさを維持・向上させるため、今後も市民との協議を通じて、利用しやすいコミュニティバスの整備(路線の見直し等)を進める。また、中心市街地と市内各地を結ぶ「あいのりタクシー」や各公共交通の連携など、誰もが利用しやすい交通環境の創出を進める。 ・観光・文化資源として再生したさくら湯について、八千代座及びその周辺の観光資源と連携したまちづくりを進める。そのため、豊前街道を軸とした一体的なまちなみの創出とともに、沿道に点在する空き地・空き店舗を改善し市街地としての連続性を高める。また、訪れる人にとって分かりやすく、回遊性が高い地区の形成に向けて、市民との連携によるマップづくりや案内板の整備を進める。 ・山鹿市の中心市街地(豊前街道周辺)を拠点としながら、周辺に分布する観光資源と連携し、市全体の周遊性を高めていく。 ・温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)については、さくら湯再生を起爆剤として、拠点性の向上によるテナント誘致活動を推進する。 ・自動車、大型観光バスが利用できる駐車場を整備する。 ・山鹿の観光情報発信基地として、また市民や来街者が交流できる場として施設利用を促進する。 ・歴史情緒漂うまちなみの維持・創出、住む人、訪れる人にとって魅力的な市街地環境となるよう、市民主体による美観活動等の取組みを推進する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
公園	泉田公園	85	調査費 用地費 施設整備費 A=1,900㎡	46	調査費 施設整備費 A=1,515㎡	事業費減(平成23年6月に計画変更) ・公園面積を維持する計画として、道路 拡幅併せて新たに公園用地を買収する 予定であったが、道路拡幅整備の見直し により用地買収する必要がなくなったた め。	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	木戸前広場	14	調査費 施設整備費 A=150㎡	7	調査費 施設整備費 A=150㎡	なし	—	●	
〃	八千代座交流施設前広場	—	—	21	調査費 施設整備費 A=666㎡	事業追加(平成24年1月に計画変更) ・八千代座交流施設敷地内に、観光客や 地域住民の憩いや交流、イベント等の多 様な活動に利用するための広場整備を 追加した。	八千代座周辺の「賑わい交流拠点」の形成につなが り、歩行者通行量に間接的な効果をもたらすが、指標 変更は据え置く	●	
〃	駐車場整備	70 (全体: 280)	A=2,900㎡	—	—	事業削除(平成23年6月に計画変更) ・新庁舎建設計画に伴い大型の駐車場 が併設されることとなった。これは、整備 予定地区にも近く、予定されていた機能 を有することから、当該駐車場整備の必 要性がなくなったため。	影響なし ・観光客のための大型駐車場の確保、自動車でも訪れ やすい中心市街地の形成として、交通環境の向上に向 けた事業となるが、温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ) (関連事業)の駐車場整備など、他の事業に補完される ため影響なし。	—	—
〃	情報板(総合案内板) 情報板(車両誘導サイン)	22	総合案内板:2箇所 車両誘導サイン:8 箇所	—	—	事業削除(平成23年6月に計画変更) ・山鹿市全体でのサイン整備計画を検討 し、それを踏まえて整備を進めること となった。検討に時間を要し、計画期間内 に整備することが困難となったため。	影響なし ・自動車運転者が分り易いサインの整備と駐車場から の誘導・案内として総合案内板の整備による、交通環 境の向上に向けた事業となるが、間接的な効果をもた らす事業であり、直接的な影響は少なく、目標、指標は 据え置く。	—	—
高質空間形成 施設	道路修景整備 西中町泉町線	62	整備費 L=300m	52.0	整備費 L=290m	事業費減(平成21年8月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
〃	道路修景整備 金剛乗寺参道線	28	整備費 L=170m	23.0	整備費 L=171m	事業費減(平成21年8月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
〃	道路修景整備 裏雨屋小路線	22	整備費 L=140m	19.5	整備費 L=136m	事業費減(平成21年8月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
〃	道路修景整備 玄小路線	38	整備費 L=270m	28.2	整備費 L=286m	事業費減(平成24年1月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	

"	道路修景整備 宗方口線	27	整備費 L=160m	26.5	整備費 L=156m	事業費減(平成22年3月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
"	道路修景整備 院の馬場線	36	整備費 L=130m	32.7	整備費 L=140m	事業費減(平成24年1月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
"	道路修景整備 石丸口線	28	整備費 L=130m	21.3	整備費 L=133m	事業費減(平成23年6月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
"	道路修景整備 中町小路線	25	整備費 L=100m	24.7	整備費 L=95m	事業費減(平成23年6月に計画変更) ・事業完了による事業費減	影響なし	●	
高次都市施設	地域交流センター建設事業 八千代座第2次整備事業	300	設計費 用地費 施設整備費 A=650㎡	—	—	事業削除(平成21年8月に計画変更) ・庁内ワーキングの結果、施設での収益 の発生、住民の利用を制限するなど、交 付要件を逸脱する整備計画へ変更した ため。 ※予定事業は市単独費として関連事業 へ変更	影響無し ・事業内容については、関連事業として継続して実施し ているため、目標、指標、数値目標への影響はない。	—	—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	八千代座第2次整備事業 (町並みセンター)	50	旧長屋棟の移築費 用A=191㎡	-	-	<p>事業削除(平成24年1月に計画変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧長屋棟の老朽化が進み移築が困難となり、現状維持の状態を保全することとなったため。 なお、当事業で予定していた観光案内機能については、現在施工中(平成24年10月末完成予定)のさくら湯の中に設置する。また、演劇資料等の展示については、八千代座交流施設内を活用する。 	<p>影響無し</p> <ul style="list-style-type: none"> 八千代座周辺の「にぎわい交流拠点」形成に向けた事業であるが、八千代座第2次整備事業(地域交流センター建設事業)、八千代座交流施設前広場など、その他事業で補完されるため目標への影響はない。 施設内に設置予定である観光案内機能や演劇資料等の展示機能については、さくら湯、八千代座館内に設置するため、指標、数値目標への影響はない。 	-	-
	まちなみ整備事業 (建築物修景整備事業)	20 (全体:34)	修景工事:12件 まちづくり団体活動 費等	5	修景工事:3件	<p>平成21年以降に実施する事業を削除(平成22年3月に計画変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画区域外の歴史的建築物についても支援の要望があり、区域外を含めた事業計画へ変更したため。(交付要件不適合)なお、平成21年以降の事業については、市単独事業費にて実施する。 <p>※H21年以降の予定事業は市単独費として関連事業へ変更</p>	<p>影響無し</p> <ul style="list-style-type: none"> 「豊前街道沿道ゾーン」の歴史的なまちなみ形成による地区の魅力向上に向けた事業である。事業内容については、関連事業として継続して実施しているため、目標、指標、数値目標への影響はない。 	●	
	共同施設整備事業	2 (全体:3)	街路灯の設置:2件	-	-	<p>事業名変更(平成21年3月に計画変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定中心市街地活性化基本計画を踏まえ「がんばる商店街支援事業」へ変更 	影響無し	-	-
	商店街ソフト事業	8 (全体:24)	商店街イベント運営 費 商店街宣伝広告費	-	-	<p>事業名変更(平成21年3月に計画変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定中心市街地活性化基本計画を踏まえ「がんばる商店街支援事業」へ変更 	影響無し	-	-
	がんばる商店街支援事業 (※平成21年3月に事業統合)	10 (全体:27)	街路灯の設置 商店街イベント運営 費 商店街宣伝広告費	1	商店街イベント運営 費等:6件	<p>平成21年以降に実施する事業を削除(平成22年3月に計画変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街からの補助率がさ上げの要望によりイベント実施において収益が発生するため。(交付要件不適合)なお、平成21年以降の事業については、市単独事業費にて実施する。 <p>※H21年以降の予定事業は市単独費として関連事業へ変更</p> <p>補足:平成21年8月に事業費変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定中心市街地活性化基本計画区域外の事業が交付対象外となったため。 	<p>影響無し</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業内容については、関連事業として継続して実施しているため、目標、指標、数値目標への影響はない。 	●	

	山鹿市商店街空き地空き店舗 対策事業	20 (全体:40)	借地料、借家料 合計:75件	4 (全体:9)	借家料:17件	平成21年以降に実施する事業を削除(平成22年3月に計画変更) ・商店街からの補助限度額、補助期間の拡大の要望により一部店舗において、交付要件の逸脱が発生し(収益の発生、既存商店との公平性が保てなくなるなど)する可能性があったため。(交付要件不適合)なお、平成21年以降の事業については、市単独事業費にて実施する。 ※H21年以降の予定事業は市単独費として関連事業へ変更 補足:平成21年8月に事業費変更 ・認定中心市街地活性化基本計画区域外の事業が交付対象外となったため。	影響無し ・事業内容については、関連事業として継続して実施しているため、目標、指標、数値目標への影響はない。	●	
	市街地循環バス運行事業	18 (全体:36)	社会実験 (バス運行経費)	4 (全体:8)	社会実験 (バス運行経費)	平成21年以降に実施する事業を削除(平成21年8月に計画変更) ・認定中心市街地活性化基本計画区域外の事業が交付対象外となったため。 ※H21年以降の予定事業は市単独費として関連事業へ変更	影響無し ・事業内容については、関連事業として継続して実施しているため、目標、指標、数値目標への影響はない。	●	
事業活用調査	事業効果分析	3	調査報告書の作成	3	調査報告書の作成	なし	—	●	
	まちづくり 活動推進事業	2	宣伝・広告費 (PRビデオ作成)	—	—	平成21年以降に実施する事業を削除(平成21年8月に計画変更) ・認定中心市街地活性化基本計画へ位置づけされていないため。 ※市単独費として関連事業へ変更	影響無し ・事業内容については、関連事業として継続して実施しているため、目標、指標、数値目標への影響はない。	—	—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			事業費 (百万円)	最終変更 計画(百万円)	当初計画	最終変更計画		
八千代座第2次整備事業 (地域交流センター建設事業)		地域交流センター建設事業 (A=650㎡)	222	222	平成21年4月～ 平成23年3月	平成21年4月～ 平成23年3月	完了 ・八千代座周辺に歴史的建築物、観光・交流施設など、多様な都市機能が集積し、「八千代座」周辺の拠点性が高まり、人が集い・賑わう場の創出が図られている。	※平成21年8月より、基幹事業(高次都市施設)から関連事業へと位置づけを変更
八千代座PRビデオ等作成		PRビデオ作成 (八千代座百周年記念事業)	2	3	平成23年4月～ 平成24年3月	平成23年4月～ 平成24年3月	完了	※平成21年8月より、提案事業(まちづくり活動推進事業)から関連事業へと位置づけを変更
暮らしにぎわい再生事業 (プラザファイブ再生事業)		プラザファイブ再生事業 (2.3ha)	1,186	1,186	平成18年4月～ 平成22年3月	平成18年4月～ 平成22年3月	完了 ・地域住民の日常生活を支えるライフスタイルセンターとして、平成22年3月27日グランドオープン。中心市街地活性化の起爆剤としての役割を期待されるも、テナントリーシングに苦戦。当初の目的(中心市街地の商業核・交流空間の再生による、賑わい創出)を果たせていない。	
暮らしにぎわい再生事業 (さくら湯再生事業)		さくら湯再生事業 (A=4,709㎡)	964	964	平成20年4月～ 平成23年3月	平成21年5月～ 平成24年10月		※平成24年10月完成予定 ※事業規模変更(A=1,000㎡)
市街地循環バス運行事業		(17.8km/1便)	32	28	平成21年4月～ 平成26年3月	平成21年4月～ 平成26年3月		※平成21年8月より、提案事業(地域創造支援事業)から関連事業へと位置づけを変更
歴史的地区環境整備街路事業		豊前街道(3工区) (L=550m)	260	260	平成24年4月～ 平成27年3月	平成24年4月～ 平成27年3月	未整備	
歴史的地区環境整備街路事業		日吉町線1工区 (L=180m、W=9m)	56	56	平成26年4月～ 平成28年3月	平成26年4月～ 平成28年3月	未整備	
歴史的地区環境整備街路事業		会所口線 (L=220m、W=4m)	53	53	平成27年4月～ 平成31年3月	平成27年4月～ 平成31年3月	未整備	
歴史的地区環境整備街路事業		西中町泉町線 (L=200m、W=13m)	754	754	平成27年4月～ 平成35年3月	平成27年4月～ 平成35年3月	未整備	
歴史的地区環境整備街路事業		大宮神社線 (L=400m)	475	475	平成25年4月～ 平成31年3月	平成25年4月～ 平成31年3月	未整備	
電線共同溝事業		国道3号 (L=1,000m)	1,000	1,000	平成19年4月～ 平成24年3月	平成19年4月～ 平成26年3月	整備中	

まちなみ整備事業 (建築物修景整備事業)	修景工事:9件 まちづくり団体活動費等	10	10	平成21年4月～ 平成24年3月	平成21年4月～ 平成25年3月	実施中	※全体事業費は34百万円 (地域創造支援事業分を 含む) ※平成22年3月より、地域 創造支援事業から関連事 業へと位置づけを変更
がんばる商店街支援事業	商店街イベント運営費等 H21:6件 H22:7件 H23:7件	11	11	平成21年4月～ 平成25年3月	平成21年4月～ 平成25年3月		※平成22年3月より、地域 創造支援事業から関連事 業へと位置づけを変更
山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業	H22:7 H23:10	31	31	平成21年4月～ 平成25年3月	平成21年4月～ 平成25年3月	実施中	※平成22年3月より、地域 創造支援事業から関連事 業へと位置づけを変更
都市計画公園事業 (泉田公園事業)	調査費 施設整備費 A=385㎡	39	39	平成25年4月～ 平成27年3月	平成25年4月～ 平成27年3月	未整備	
サイン整備計画	サイン整備(10箇所)	22	22	平成25年4月～ 平成27年3月	平成25年4月～ 平成27年3月	未整備	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	見込み	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	八千代座の入場者数	人/年	83,534	H13	76,380	H18	82,000	H24	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み	H24	85,600	事後評価		
指標2	山鹿市中心市街地の歩行者通行量(8地点合計) (人/8h、平日休日10時～18時の平均)	人/8h	6,327	H14	4,426	H19	4,500	H24	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み	H24	5,500	事後評価		
指標3	中心市街地における空き店舗数	店舗	68	H13	62	H18	25	H24	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み	H24	60	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	<ul style="list-style-type: none"> 八千代座周辺の拠点性の創出をはじめ、歴史情緒感じるまちの形成が進み、八千代座の入場客数が増加している。H24年においてもH23年度の入場者数を維持(効果を持続)するものとする。 また、今後、さくら湯の竣工により、歴史観光地としての拠点性が高まり、その相乗効果により八千代座の入場者数(見学者数)も増加することが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年、23年度は、八千代座百周年記念事業による多彩なイベント活動が実施されたことにより、指標数値が高くなるなど、ソフト事業の展開により大きな効果が発現している。
指標2	<ul style="list-style-type: none"> 事後評価の時点では、数値目標に至っていないが、前年度(H22)においては、目標値を上回っている。 これは、さくら湯再生事業によるさくら湯の休業の影響が考えられる。さくら湯の竣工により、歩行者通行量も増加することが考えられ、H22年度の伸び率を維持するものとして、目標を達成すると設定 	
指標3	<ul style="list-style-type: none"> 事後評価時点では数値目標に至っておらず、また1年以内には、目標を達成できないと判断 空き地空き店舗対策事業やまちなみ整備事業により、空き店舗改善について一定の効果はあるが、郊外大規模店舗立地の影響に加え、商業者の高齢化、後継者問題等の要因により、空き店舗改善が進んでいない状況 	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	中心市街地内の主要観光施設の利用者数	人	・山鹿市観光統計調査(山鹿市年間観光客入込み数調査)	139,701	H15	147,703	H20	モニタリング	-	-	・観光客数の変化により地区全体のにぎわいが向上したことによる効果を表す指標としてふさわしいため	※H21.9よりさくら湯が休業となるため、当該施設を除いた値
								事後評価	確定見込み	●		
その他の数値指標2	市街地循環バス利用者数	人/年	・やまが市街地循環バス利用実績(企画課資料)			6,250	H21	モニタリング	-	-	・住民の交通環境の向上と地区全体のにぎわいが向上したことによる効果を表す指標としてふさわしいため	
								事後評価	確定見込み	●		
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 泉田公園の整備など、地元自治会での意見集約など、住民との協働によるまちづくりを進めることで、地元自治会による公園の清掃活動が実施されている。
- 修景に配慮した整備を行うことで、景観形成に対する意識が向上している。
- 「がんばる商店街支援事業」の実施の中で、泉田公園整備においてフードフェスティバルを開催するなど、各事業の連携による効果が発揮されている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「広報やまが」による事業進捗状況の公表	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input checked="" type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	都市再生整備計画事業の全体に対する進捗報告については、実施していない。ただし、都市再生整備計画に位置づけた主要事業の実施状況については、適宜広報へ掲載した。	完了
意見の聴取 (泉田公園整備事業[基幹事業]に関して)	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input checked="" type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	【頻度】:計2回 【時期】:H21～H22年 【結果】:泉田公園整備にあたって、地元自治会で地域住民の意見集約が諮られた。また、公園整備後、地元自治会により、公園の清掃活動が実施されている。	自治会による清掃活動が継続されるように、市は後方支援を行う。
「八千代座を考える会」「八千代座審議会」の開催 (地域交流センター建設[関連事業]、木戸前広場整備[基幹事業]に関して)	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input checked="" type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	【頻度】:計5回 【時期】:H19年 【内容】:地域交流センター建設(八千代座第2次整備)[関連事業]や木戸前広場[基幹事業]の整備など、八千代座周辺の整備にあたって市民の意見を反映することで、市民が利用しやすい施設整備に繋がっている。また、市民組織が主体となった八千代座でのイベント活動等の展開に繋がっている。	今後も、「八千代座を考える会」や市民を主体とした組織との連携を保ち、八千代座、地域交流センターの活用に向けた取り組みを進める。
検討委員会 (暮らしにぎわい再生事業(さくら湯再生事業)[関連事業])	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input checked="" type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	【頻度】:計9回 【時期】:H21～H23年 【内容】:さくら湯の再建にあたって、検討委員会を立ち上げ、基本計画、基本設計において市民の意見や専門家の意見を反映した。	完了
「地域公共交通会議」 (市街地循環バス運行事業[提案事業・関連事業]に関して)	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input checked="" type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	【頻度】:年1回程度 【時期】:H19年～ 【内容】:市街地循環バスの運行計画策定にあたり、事業者、行政、地域住民を委員とした地域公共交通会議を開催することで市民が利用しやすい循環バスとなっている。	今後も市民の意見を反映し、利用促進を図る。
まちづくり懇談会 (がんばる商店街支援事業[提案・関連事業]に関して)	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input checked="" type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	【頻度】:計20回 【時期】:H21.4～H22.3 【内容】:商店街や地元まちづくり団体、また地区住民との連携により、イベント内容を検討することで、イベント運営時において、商店街と住民との連携が生まれている。	今後も商店街、住民との連携による取り組みを進める。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
八千代座周辺の活性化に向けたまちづくり活動(イベントの検討など)	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>	●	<p>地域交流センター、木戸前広場など八千代座周辺整備をきっかけとした市民主体のまちづくりの取り組み</p> <p>「八千代座を考える会」「八千代座審議会」</p>	八千代座の活用促進や周辺施設との連携による賑わいの創出に向けて、まちづくり活動の支援を行う。
商店街の活性化に向けたまちづくり活動(イベントの検討など)	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>	●	<p>がんばる商店街支援事業、商店街空き地空き店舗対策事業をきっかけとした市民主体のまちづくりの取り組み</p> <p>各商店街組織・振興会、「泉町フードフェスティバル実行委員会」等</p>	商店街広くは中心市街地の活性化に向けて、まちづくり活動の支援を行う。
	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
山鹿中央地区都市再生整備計画事業事後評価 庁内検討会議	関係各課事業担当者 :都市計画課、財政課、企画課、商工課、観光課、 景観建築室、文化課	第1回 平成24年9月24日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		八千代座の入場者数		山鹿市中心市街地の歩行者通行量		中心市街地内の主要観光施設の利用者数		市街地循環バス利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	[公園] 泉田公園	—	地域交流センターの建設及び同前広場、木戸前広場の整備により、八千代座周辺の拠点性が更に高まるとともに、八千代百周年記念事業の実施や観光案内機能(情報発信等)の強化により、八千代座に訪れる人が増加している。 また、道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、地区の魅力が向上し訪れる人の増加＝八千代座入場者数の増加に繋がっている。 また、将来的にも、さくら湯再生事業により観光資源としての特性が創出され、八千代座周辺拠点との連携からも見学者数の増加が見込まれる。	◎	八千代座周辺の観光交流拠点、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の賑わい拠点整備により、観光、買い物また交流(地域活動)の場として当該地区の集客性が高まり、歩行者通行量の増加につながっている。 また、イベント実施(がんばる商店街支援事業)による中心市街地の魅力の創出や市街地循環バス、あいのりタクシー(事業外)、よへほ号(事業外)等の運行により中心市街地への訪れやすさの向上による効果も発現している。 加えて、道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、地区の魅力が向上し訪れる人の増加＝歩行者通行量の増加に繋がっている。	○	八千代座周辺の整備、プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事業など、「にぎわい交流拠点」の創出により、本地区の拠点性が高まった。 また、地域生活基盤整備や提案事業の実施により、歴史情緒漂うまちなみの整備を進めたことで、豊前街道を軸としながら、歴史観光地としての特長が強化され、地区のにぎわいが向上した。それにより、中心市街地内の主要観光施設の利用者数の増加につながっている。	○	プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事業、地域交流センターの整備など、市民が集まる場としてのにぎわいの創出が進んでいる。また、がんばる商店街支援事業をはじめとしたイベントの実施や空き店舗活用による商業活力の創出により、にぎわいある商店街づくりが進み、中心市街地へ訪れる人＝循環バス利用者数の増加につながっている。 また、本事業対象外ではあるが、市内各地域と中心市街地を結ぶ「あいのりタクシー」や福岡市と山鹿市を結ぶ「よへほ号」の運行により、市域及び広域の交通環境の向上につながっている。
	[地域生活基盤施設] 木戸前広場	◎		◎		◎		○	
	[地域生活基盤施設] 八千代座交流施設前広場	◎		◎		◎		○	
	[地域生活基盤施設] 駐車場整備	削除		削除		削除		削除	
	[地域生活基盤施設] 情報板(総合案内板)	削除		削除		削除		削除	
	[地域生活基盤施設] 情報板(車両誘導サイン)	削除		削除		削除		削除	
	[高質空間形成施設] 道路修景整備(西中町泉町線、金剛乗寺参道線、裏雨屋小路線、玄小路線、宗方口線、院の馬場線、石丸口線、中町小路線)	○		○		○		○	
提案事業	[高次都市施設] 地域交流センター建設事業	削除	八千代座に訪れる人が増加している。 また、道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、地区の魅力が向上し訪れる人の増加＝八千代座入場者数の増加に繋がっている。 また、将来的にも、さくら湯再生事業により観光資源としての特性が創出され、八千代座周辺拠点との連携からも見学者数の増加が見込まれる。	削除	八千代座周辺の観光交流拠点、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の賑わい拠点整備により、観光、買い物また交流(地域活動)の場として当該地区の集客性が高まり、歩行者通行量の増加につながっている。 また、イベント実施(がんばる商店街支援事業)による中心市街地の魅力の創出や市街地循環バス、あいのりタクシー(事業外)、よへほ号(事業外)等の運行により中心市街地への訪れやすさの向上による効果も発現している。 加えて、道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、地区の魅力が向上し訪れる人の増加＝歩行者通行量の増加に繋がっている。	削除	八千代座周辺の整備、プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事業など、「にぎわい交流拠点」の創出により、本地区の拠点性が高まった。 また、地域生活基盤整備や提案事業の実施により、歴史情緒漂うまちなみの整備を進めたことで、豊前街道を軸としながら、歴史観光地としての特長が強化され、地区のにぎわいが向上した。それにより、中心市街地内の主要観光施設の利用者数の増加につながっている。	削除	プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事業、地域交流センターの整備など、市民が集まる場としてのにぎわいの創出が進んでいる。また、がんばる商店街支援事業をはじめとしたイベントの実施や空き店舗活用による商業活力の創出により、にぎわいある商店街づくりが進み、中心市街地へ訪れる人＝循環バス利用者数の増加につながっている。 また、本事業対象外ではあるが、市内各地域と中心市街地を結ぶ「あいのりタクシー」や福岡市と山鹿市を結ぶ「よへほ号」の運行により、市域及び広域の交通環境の向上につながっている。
	※関連事業へ位置づけ	削除		削除		削除		削除	
	[地域創造支援事業] 八千代座第2次整備事業(町なみセンター)	削除		削除		削除		削除	
	[地域創造支援事業] まちなみ整備事業(建築物修景整備事業)(※H21以降は関連事業で実施)	○		○		◎		○	
	[地域創造支援事業] がんばる商店街支援事業(※H21以降は関連事業で実施)	○		○		◎		○	
	[地域創造支援事業] 山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業(※H21以降は関連事業で実施)	—		—		◎		○	
	[地域創造支援事業] 市街地循環バス運行事業(※H21以降は関連事業で実施)	—		—		—		◎	
関連事業	[事業活用調査] 事業効果分析	—	八千代座に訪れる人が増加している。 また、道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、地区の魅力が向上し訪れる人の増加＝八千代座入場者数の増加に繋がっている。 また、将来的にも、さくら湯再生事業により観光資源としての特性が創出され、八千代座周辺拠点との連携からも見学者数の増加が見込まれる。	—	八千代座周辺の観光交流拠点、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の賑わい拠点整備により、観光、買い物また交流(地域活動)の場として当該地区の集客性が高まり、歩行者通行量の増加につながっている。 また、イベント実施(がんばる商店街支援事業)による中心市街地の魅力の創出や市街地循環バス、あいのりタクシー(事業外)、よへほ号(事業外)等の運行により中心市街地への訪れやすさの向上による効果も発現している。 加えて、道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されることで、地区の魅力が向上し訪れる人の増加＝歩行者通行量の増加に繋がっている。	—	八千代座周辺の整備、プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事業など、「にぎわい交流拠点」の創出により、本地区の拠点性が高まった。 また、地域生活基盤整備や提案事業の実施により、歴史情緒漂うまちなみの整備を進めたことで、豊前街道を軸としながら、歴史観光地としての特長が強化され、地区のにぎわいが向上した。それにより、中心市街地内の主要観光施設の利用者数の増加につながっている。	—	プラザファイブ再生事業、さくら湯再生事業、地域交流センターの整備など、市民が集まる場としてのにぎわいの創出が進んでいる。また、がんばる商店街支援事業をはじめとしたイベントの実施や空き店舗活用による商業活力の創出により、にぎわいある商店街づくりが進み、中心市街地へ訪れる人＝循環バス利用者数の増加につながっている。 また、本事業対象外ではあるが、市内各地域と中心市街地を結ぶ「あいのりタクシー」や福岡市と山鹿市を結ぶ「よへほ号」の運行により、市域及び広域の交通環境の向上につながっている。
	[まちづくり活動推進事業] 八千代座PRビデオ等作成(町なみセンター)	削除		削除		削除		削除	
	[関連事業] 八千代座第2次整備事業(地域交流センター建設事業)	◎		◎		◎		○	
	[関連事業] 暮らしにぎわい再生事業(プラザファイブ再生事業)	—		◎		◎		○	
	[関連事業] 暮らしにぎわい再生事業(さくら湯再生事業)	○		◎		◎		○	
	[関連事業] 八千代座PRビデオ等作成	○		○		○		○	
	[関連事業] 市街地循環バス運行事業	—		○		—		◎	
今後の活用	[関連事業] 電線共同溝事業	—	八千代座の活用、イベントの開催や地域交流センターの活用など、来訪者、住民が集い、様々なにぎわいを創出する拠点として、八千代座周辺の利用を促進する。 また、八千代座周辺、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の連携により、歴史観光地としての特性を高め、来訪者の増加による相乗効果を図る。	—	八千代座やさくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の拠点性(集客)を高める。また、それらを結ぶ修景に優れた道路や建築物の整備など、まちなみ環境の整備を継続することで、回遊性が高く、まとまりある市街地形成を進める。 また、今後も市民の意見を反映しながら、交通環境の改善を図り、訪れやすい中心市街地の形成を進める。	—	八千代座周辺の観光交流拠点、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の賑わい拠点を活かしながら、歴史情緒漂う観光地として役割を強化しながら、周辺(他地区)との連携を図り、山鹿市全体への観光客の誘致を進める。 更には、訪れやすい中心市街地として引き続き公共交通の利用促進を進める。	—	福岡市と山鹿市を結ぶ「よへほ号」の運行により、市域及び広域の交通環境の向上につながっている。
	[関連事業] 建築物修景整備事業	○		○		◎		○	
	[関連事業] がんばる商店街支援事業	○		◎		◎		○	
	[関連事業] 山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業	—		○		◎		○	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	八千代座の活用、イベントの開催や地域交流センターの活用など、来訪者、住民が集い、様々なにぎわいを創出する拠点として、八千代座周辺の利用を促進する。 また、八千代座周辺、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の連携により、歴史観光地としての特性を高め、来訪者の増加による相乗効果を図る。	八千代座やさくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の拠点性(集客)を高める。また、それらを結ぶ修景に優れた道路や建築物の整備など、まちなみ環境の整備を継続することで、回遊性が高く、まとまりある市街地形成を進める。 また、今後も市民の意見を反映しながら、交通環境の改善を図り、訪れやすい中心市街地の形成を進める。	八千代座周辺の観光交流拠点、さくら湯及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)周辺の賑わい拠点を活かしながら、歴史情緒漂う観光地として役割を強化しながら、周辺(他地区)との連携を図り、山鹿市全体への観光客の誘致を進める。 更には、訪れやすい中心市街地として引き続き公共交通の利用促進を進める。
-------	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1 中心市街地における空き店舗			指標○			指標○			指標○		
		指標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	指標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	指標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	指標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[公園] 泉田公園	—	空き地空き店舗対策事業やまちなみ整備事業により、空き店舗改善の効果がみられる。しかし一方で、プラザファイブ再生事業については、計画認定と時を同じくして起こった世界同時不況の影響を受け、テナントリーシングが進まず、全体店舗の約80%の充足率でのオープンと、厳しい状況となっている。また、中心市街地全体としても、郊外店の影響に加え、商業者の高齢化、後継者問題等の要因により、空き店舗改善が進んでいない状況にある。	I・III									
	[地域生活基盤施設] 木戸前広場	—											
	[地域生活基盤施設] 八千代座交流施設前広場	—											
	[地域生活基盤施設] 駐車場整備	削除											
	[地域生活基盤施設] 情報板(総合案内板)	削除											
	[地域生活基盤施設] 情報板(車両誘導サイン)	削除											
	[高質空間形成施設] 道路修景整備(西中町泉町線、金剛乗寺参道線、裏雨屋小路線、玄小路線、宗方口線、院の馬場線、石丸口線、中町小路線)	—											
提案事業	[高次都市施設] 地域交流センター建設事業※関連事業へ位置づけ	削除											
	[地域創造支援事業] 八千代座第2次整備事業(町なみセンター)	削除											
	[地域創造支援事業] まちなみ整備事業(建築物修景整備事業)(※H21以降は関連事業で実施)	△											
	[地域創造支援事業] がんばる商店街支援事業(※H21以降は関連事業で実施)	△											
	[地域創造支援事業] 山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業(※H21以降は関連事業で実施)	△											
	[地域創造支援事業] 市街地循環バス運行事業(※H21以降は関連事業で実施)	—											
	[事業活用調査] 事業効果分析	—											
関連事業	[まちづくり活動推進事業] 八千代座PRビデオ等作成(町なみセンター)	削除											
	[関連事業] 八千代座第2次整備事業(地域交流センター建設事業)	—											
	[関連事業] 暮らしにぎわい再生事業(プラザファイブ再生事業)	△											
	[関連事業] 暮らしにぎわい再生事業(さくら湯再生事業)	△											
	[関連事業] 八千代座PRビデオ等作成	—											
	[関連事業] 市街地循環バス運行事業	—											
	[関連事業] 電線共同溝事業	—											
	[関連事業] まちなみ整備事業(建築物修景整備事業)	△											
	[関連事業] がんばる商店街支援事業	△											
[関連事業] 山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業	△												

※目標未達成への影響度

- × x : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △ : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I : 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II : 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	さくら湯再生事業と連携して温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)活用の強化を図る。また、八千代座、豊前街道をはじめ市街地の景観整備による地域のイメージアップやイベント活動等と連携を強化する。				
------------------	---	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
山鹿中央地区都市再生整備計画事業事後評価 庁内検討会議	関係各課事業担当者 : 都市計画課、財政課、企画課、商工課、観 光課、景観建築室、文化課	第1回 平成24年9月24日 第2回 平成24年10月19日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
既存の観光資源を有効活用 するため核となる施設の拠点 性を高めること	<ul style="list-style-type: none"> ・八千代座周辺に歴史的建築物、観光・交流施設など、多様な都市機能の集積が進むとともに訪れるひとが憩い交流できる広場が整備されるなど、「八千代座」周辺の拠点性が高まり、人が集い・賑わう場の創出が図られている。 ・プラザファイブ再生事業による地域住民の日常生活を支える拠点の創出、山鹿の元湯として古くから市民に親しまれてきたさくら湯の再建等により、市民交流、観光交流拠点としての機能が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラザファイブ再生事業については、計画認定と時を同じくして起こった世界同時不況の煽りを受け、テナントリーシングが進まず、全体店舗の約80%の充足率でのオープンとなっており、空き床率の改善が必要である。 ・地区及び山鹿市の観光資源について、来訪者に情報発信していくための機能の強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・文化資源として再生したさくら湯について、八千代座及びその周辺の観光資源と連携したまちづくりを進めることが必要である。 ・地域交流センターについて、八千代座百周年記念事業関係でH22.23年度は多彩なイベントに活用されたが、今後、更なる利活用を図り、人が集い交流する機会を作ることが必要である。 ・公園が整備されたことにより、ゴミのポイ捨てや犬のフン等一部の利用者のマナーが悪いため、その対策が必要である。
歴史的まちなみを活かした景 観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・道路修景整備やまちなみ整備事業により、歴史的な建築物の保存・修景が進み、歴史情緒漂うまちなみが創出されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修景が進んでいく一方で、老朽化した住宅の増加、維持、管理する人の減少と高齢化に対する対策が必要である。(民間建築物の維持管理) 	
歩きたくなる回遊性の高いま ちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・八千代座周辺、温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)・さくら湯周辺の人々が訪れたい場(点)の整備、またそれらを結ぶ修景に優れた歩行者動線(線)の整備、また訪れる人が憩い、交流できる広場の整備など、回遊性を高める施設や基盤整備は整いつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性を高めていくための、ソフト施策の充実が必要である。 	
まちの顔としての中心市街地 商店街の魅力を高めること	<ul style="list-style-type: none"> ・八千代座周辺及び温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)・さくら湯周辺の整備に伴い、中心市街地としての魅力は高まっている。 ・空き地空き店舗対策事業やまちなみ整備事業により、空き店舗改善について一定の効果が見られる。 ・イベントの開催により、地区の賑わいは高まっている。 ・歴史的まちなみの創出、回遊性の高い歩行者ネットワークの形成など、中心市街地において魅力的な都市空間の創出に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外店の影響に加え、商業者の高齢化、後継者問題等の要因により、空き店舗改善が進んでおらず、その改善が必要である。 	
自動車・バスによるアクセス性 の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地循環バスの運行により、市民や来街者が容易に中心市街地へ訪れることができ、交通アクセスは向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客のための大型駐車場の確保、自動車でも訪れやすい中心市街地の形成として、交通環境の向上に向けた駐車場の整備が必要である。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり
方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
<p>A欄 効果を持続させるため に行う方策</p>	<p>八千代座周辺(観光文化・にぎわい拠点)や温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)・さくら湯周辺(市民交流・観光交流拠点)における「拠点性」の維持</p>	<p>・多くの人が訪れる交流の場として、また市民が日常的に買い物やレクリエーションを楽しむ交流の場として、その拠点性を維持するため、観光情報の発信やイベントの開催、また市民主体の取り組みを維持していく。 ・豊前街道を軸に広がる歴史情緒溢れる歴史的なまちなみ、山鹿灯籠まつりなど地域の独自性を活かした取り組みを推進し地域の賑わいを持続させる。</p>	<p>・八千代座、八千代座交流施設の利用促進に向けた取り組み ・イベントの継続・企画 ・各種まちづくり団体の連携に向けた取り組み</p>
	<p>歴史情緒漂うまちなみの維持・創出 回遊性の高い中心市街地の形成</p>	<p>・八千代座、さくら湯をはじめとして、豊前街道を軸に広がる歴史情緒漂うまちなみを維持、創出しまとまりある地区の形成を進める。 ・訪れる人にとって分りやすく、回遊性が高い地区の形成に向けて、市民との連携によるマップづくりや案内板の整備を進める。</p>	<p>・まちなみ整備事業(建築物修景整備事業) ・歴史的地区環境整備街路事業 ・サイン計画検討(看板の統一) ・観光マップの改善 ・空き地空き店舗対策事業</p>
	<p>市民によるにぎわいの形成</p>	<p>・商店街関係者、地区住民及び市民、また市との連携による、地域資源の掘り起こしや活用、またイベント等の開催など、市民による賑わいの創出を図る。</p>	<p>・がんばる商店街支援事業 ・イベントの継続・企画</p>
	<p>誰もが利用しやすい交通環境の維持</p>	<p>・中心市街地への訪れやすさを維持・向上させるため、今後も市民との協議を通じて、利用しやすいコミュニティバスの整備(路線の見直し等)を進める。 ・中心市街地と市内各地を結ぶ「あいのリタクシー」や各公共交通の連携など、誰もが利用しやすい交通環境の創出を進める。</p>	<p>・コミュニティバスの運行維持 ・あいのリタクシーの運行維持</p>

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
<p style="text-align: center;">B欄 改善策</p> <p>・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策</p>	八千代座、さくら湯の連携による観光振興	<ul style="list-style-type: none"> 観光・文化資源として再生したさくら湯について、八千代座及びその周辺の観光資源と連携したまちづくりを進める。 そのため、豊前街道を軸とした一体的なまちなみの創出とともに、沿道に点在する空き地・空き店舗を改善し市街地としての連続性を高める。 既存のイベントや新たなイベントを活用・提案しながら、本地区に点在する資源を活かした取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地空き店舗対策事業 がんばる商店街支援事業 イベントの継続・企画
	温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)の空き床率の改善と中心市街地商店街の空き店舗の改善	<ul style="list-style-type: none"> 温泉プラザ山鹿(旧プラザファイブ)については、さくら湯再生事業を起爆剤として、拠点性の向上によるテナント誘致活動を推進 地区住民の利便性を支える商店街として、また山鹿市の拠点として、中心市街地再生にむけた取組みの継続 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地空き店舗対策事業 がんばる商店街支援事業
	情報発信する機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 山鹿市の歴史、文化等の魅力を発信する機能(ソフト)の充実 「ひと」「もの」「情報」の連携 山鹿市の中心市街地(豊前街道周辺の拠点)と周辺に分布する観光資源との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報発信(PR事業) 観光案内ボランティア等の人材育成
	誰もが訪れやすい中心市街地として、交通環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> 自動車、大型観光バスが利用できる駐車場の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の整備
	地域交流センターの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 山鹿の観光情報発信基地として、また市民や来街者が交流できる場として施設利用を促進 	<ul style="list-style-type: none"> イベント会場として活用
	良好な市街地環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> 歴史情緒漂うまちなみの維持・創出、住む人、訪れる人にとって魅力的な市街地環境となるよう、市民主体による美観活動等の取組みを推進 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

■八千代座周辺の整備、さくら湯の整備により歴史文化を活かした観光・交流拠点としてのにぎわい形成に向けた基盤は整いつつある。また、豊前街道のまちなみ環境など、中心市街地として一体的な市街地整備も形成されている。今後は、これらの拠点施設(点)や豊前街道(線)をつなぎ、回遊性(楽しく散策、観光できること)の向上を目指す必要がある。そのため、人と人との連携によるにぎわいに加え、豊前街道沿いに商業施設や観光関連施設、またその他新たな活力を創出する店舗等を誘導するなど、地区として一体的なにぎわいを形成するための取組が必要と考えられる。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度				予定時期	計測方法	その他特記事項				
指標1	八千代座の入場者数	人/日	76,380	H18	82,000	H24	確定	●	85,600	○	あり	●	→	平成25年4月頃	平成24年4月～平成25年3月の八千代座入場者数(八千代座交流施設を含む)を確定値として求める。	
							見込み				なし					
指標2	山鹿市中心市街地の歩行者通行量(8地点合計)	人/8h	4,426	H19	4,500	H24	確定	●	5,500	○	あり	●	→	平成25年3月頃	商工会議所が平成25年3月頃(予定)に実施する歩行者通行量調査の結果を確定値として求める。	
							見込み				なし					
指標3	中心市街地における空き店舗数	店舗	62	H18	25	H24	確定	●	60	△	あり	●	→	平成25年5月頃	山鹿市商工課が平成25年5月頃(予定)に実施する空き店舗調査の結果を確定値として求める。	
							見込み				なし					
その他の数値指標1	中心市街地内の主要観光施設の利用者数	人/年	147,703	H20	/		確定	●	148,929	/		→	なし	— (中心市街地活性化基本計画にあわせ、PDCAサイクルに基づく事業実施に向けて、必要に応じて継続的に調査を進める。)		
その他の数値指標2	市街地循環バス利用者数	人/年	6,250	H21	/		確定	●	6,962	/		→	なし	— (中心市街地活性化基本計画にあわせ、PDCAサイクルに基づく事業実施に向けて、必要に応じて継続的に調査を進める。)		
							見込み									
その他の数値指標3					/		確定			/		→				
							見込み									

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	・指標(数値)の定義を明確にすること
	うまく いかなかった点	・空き店舗の捉え方については、「計測時点で空き店舗が対象」「そもそも空き店舗の定義が曖昧」であったため、改善効果を定量的に示すことができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	・事業目的と指標との相関関係、目標値の数値根拠等のバックデータを整理することで、達成できなかった理由、できた理由等、当初想定した効果との乖離を考察するためにも有効である。 ・社会資本総合整備計画、中心市街地活性化基本計画の一部として扱われる都市再生整備計画については、全体としての評価と部分(都市再生整備計画)としての評価について、位置づける必要がある。或は、全体として評価する仕組みを検討する必要がある。
	うまく いかなかった点	・プラザファイブ再生事業と空き店舗改修事業(商店街)について、中心市街地の商業活性化としては同じ目的を持つ。しかしその一方で、部分的な店舗誘致や販売を見た場合は、競合する場合があります。 ・当該地区のまちづくりとしては、目的・数値目標を達成しているが、当初位置づけた事業において、関連事業へ移行した事業が多くあり、都市再生整備計画自体(交付金対象事業)としての成果との関連性の把握が難しい部分もある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・公園整備において、積極的に住民参加の機会を提供した結果、清掃活動等、住民による公共施設の維持管理につながった。	・住民参加により事業内容を検討することは、住民によるまちづくりの実施(施設の維持管理等)につながる。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・事後評価を通じて、次期計画において取り組むべき課題が明確になり、今後のまちづくり方策が明確になった。	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

当評価結果については、中心市街地活性化基本計画の評価に活用する。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成24年11月20日～ 平成24年12月19日	平成24年11月20日～ 平成24年12月19日	担当課への 書面、発送、ファック ス、電子メール	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	市役所本館ロビー、都市計画 課窓口での閲覧	平成24年11月20日～ 平成24年12月19日	平成24年11月20日～ 平成24年12月19日		

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	位寄 和久(熊本大学大学院自然科学研究科 教授)※委員長	第1回 平成24年12月28日 第2回 平成25年1月30日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)	山鹿市都市再生整備計画評価委員会規程	独自に設置
その他の委員	多田隈 亮典(山鹿市文化財保護委員会 委員) 井口 圭祐(山鹿温泉観光協会 会長) 津留 浩三(熊本県建築士会山鹿支部 支部長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1「八千代座の入場者数」について、平成22年、23年の数値は八千代座百周年記念事業のソフト事業の展開による効果である事について意見があった。→意見を踏まえ、効果の発現について左記の内容を追加
	実施過程の評価	特になし
	効果発現要因の整理	特になし(成果の評価に同じ)
	事後評価原案の公表の妥当性	・広報等により広く市民へ知らせる事の必要性について意見があった。→結果の公表については、広報等で情報発信する旨を答弁
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められたと確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・地区の回遊性を高めるため、市民と連携しながら、分りやすい案内板の設置やマップ作成を進めることについて意見があった。→市民との連携の推進や回遊性を高めるための記述を再整理 ・中心市街地(豊前街道周辺)の歴史資源と周辺地区に分布する歴史資源との連携を図ることについて意見があった。→左記の内容に関する記述を追加。
	フォローアップ	特になし
	その他	・福岡～山鹿を結ぶ「よへほ号」の運行については、25年3月31日で運行廃止となるとの意見があった。→運行継続に関する記述を削除。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・審議事項「今後のまちづくりの作成」に関する意見はあるが、全体として今後のまちづくり方策は妥当であることが認められた。
その他	特になし	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、都市再生整備計画評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---

都市再生整備計画(第6回変更)

やまがちゅうおうちく
山鹿中央地区

くまもとけん やまがし
熊本県 山鹿市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	山鹿市	地区名	山鹿中央地区	面積	980 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

目標
 八千代座を中心とする豊前街道山鹿温泉界隈の歴史的町並みの魅力を活かした、中心市街地の賑わいと交流のあるまちづくり

目標1	住民・来街者が集う「にぎわい交流拠点」を形成する。
目標2	住民・来街者の交通環境と、歴史的環境を活かした住民の居住環境の向上を図る。
目標3	にぎわいのある商店街づくり。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○本地区は、山鹿市の中心市街地を形成するとともに、旧豊前街道沿いなどに歴史的な街並みを残す歴史的環境地区であり、国指定重要文化財「八千代座」、「山鹿灯笼まつり」、温泉などの観光資源を有し、古くから山鹿の歴史・生活文化の中心として発展してきた地区であるが、生活スタイルや急速な社会変化などを背景として、中心市街地としての賑わいを失っている。
 ○平成10年に住民・商工会議所、婦人会、商業者、行政で構成する「山鹿協同隊」によるワークショップで中心市街地活性化基本計画を策定し、ハード・ソフトの両面から事業を推進して

課題

- 既存の観光資源を有効活用するため核となる施設の拠点性を高める必要がある。
- 歴史的町並みを活かした景観形成の向上と歩きたくなる回遊性が必要である。
- まちの顔としての中心市街地商店街の魅力を高めるための支援が必要である。
- 自動車・バスによるアクセス性の向上が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- 第1次山鹿市総合計画(平成18年3月)…にぎわいのある商店街づくりを推進することとしており、プラザファイブ再整備事業(さくら湯再生を含む)の支援と連携や、温泉、八千代座、歴史的街並みなどの観光資源の有効活用が位置づけられている。
- 山鹿市都市計画マスタープラン(平成10年9月)…「歴史と温泉情緒の薫る魅力ある中心市街地の形成」のテーマのもと、中心市街地の都市機能や歴史的資源を活かすとともに、交通処理問題への対応が挙げられている。
- 中心市街地活性化基本計画(平成11年3月)…6つの基本方針である「温泉に

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
八千代座入場者数	人/日	八千代座の入場者数(人/日)	八千代座周辺整備及びまちづくり団体活動の相乗効果により、八千代座入場者数の増加を目指す。	76,380人/年	H18	82,000人/年 (約7%の伸び)	H24
歩行者通行量	人/8h	山鹿市中心市街地の歩行者通行量(8地点合計) (人/8h、平日休日10時～18時の平均)	自動車アクセス性の向上と歴史的町並みを活かした歩行者空間整備により、来街者の回遊性が高まることから、歩行者通行量の増加を目指す。	4,426人/8h	H19	4,500人/8h (約2%の伸び)	H24
空き店舗数	店舗	中心市街地における空き店舗数	商店街の魅力向上により、活力ある商店街を形成し、空き店舗の解消を目指す。	62店舗	H18	25店舗 (約60%減)	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（歴史・文化・観光の拠点として、住民・来街者が集う「にぎわい交流拠点」を形成する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定重要文化財「八千代座」の拠点性をより一層高めるため、地域交流センターの充実を図る。 ・暮らし・にぎわい再生事業による温泉プラザ山鹿(プラザファイブ)の再生整備に併せさくら湯再生事業をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○がんばん商店街支援事業(関連事業/商店街) ○八千代座第2次整備事業・地域交流センター(関連事業/市) ○八千代座PRビデオ等作成(関連事業/市) ○暮らしにぎわい再生事業(関連事業/温泉プラザ山鹿管理組合法人) ○さくら湯再生事業(関連事業/市)
<p>整備方針2（自動車アクセス性の向上と歴史的町並みを活かした歩行者空間の整備により、交通環境・居住環境の向上を図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化資源やさくら湯等をつなぐ小路などの歩行空間のグレードアップを行う。 ・回遊性を高めるため、歩行者が休憩でき、イベントなど多様な活動に利用できる広場の整備をおこなう。 ・市民・来街者が中心市街地へ移動容易な公共交通機関(市街地循環バス)を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■公園(基幹事業/泉田公園) ■地域生活基盤施設(基幹事業/木戸前広場、八千代座交流施設前広場) ■高質空間形成施設(基幹事業/西中町泉町線、金剛乗寺参道線、裏雨屋小路線、玄小路線、宗方口線、院の馬場線、石丸口線、中町小路線) ○まちなみ整備事業(関連事業/民間) ○市街地循環バス運行事業(関連事業/バス事業者) ○歴史的地区環境整備街路事業(関連事業/豊前街道(3工区)、日吉町線1工区、会所口線、西中町泉町線、大宮神社線) ○電線共同溝事業(関連事業/国道3号) ○都市計画公園事業(関連事業/市) ○サ
<p>整備方針3（商店街の魅力向上に、商店街の活性化を図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の魅力向上のため、歴史的町並みを活かしたまちなみ整備、街路灯設置(ハード事業)やイベント(ソフト事業)を支援するとともに、空地空き店舗の対策を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域生活基盤施設(基幹事業/駐車場) ○まちなみ整備事業(関連事業/民間) ○がんばん商店街支援事業(関連事業/商店街) ○山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業(関連事業/商店街) ○暮らしにぎわい再生事業(関連事業/温泉プラザ山鹿管理組合法人)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動について <ul style="list-style-type: none"> ・既存のまちづくり団体等によるイベントの開催、まちづくり研修等の活動を継続し、地区全体でまちづくり活動を展開する。 ○交付期間中の計画の管理について <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営の専任担当者を配置するとともに、既存の庁内横断組織であるまちづくり会議を主体として事業計画の管理を実施する。 ・事業進捗状況を「広報やまが」で定期的に公表する。 	

交付対象事業等一覧表

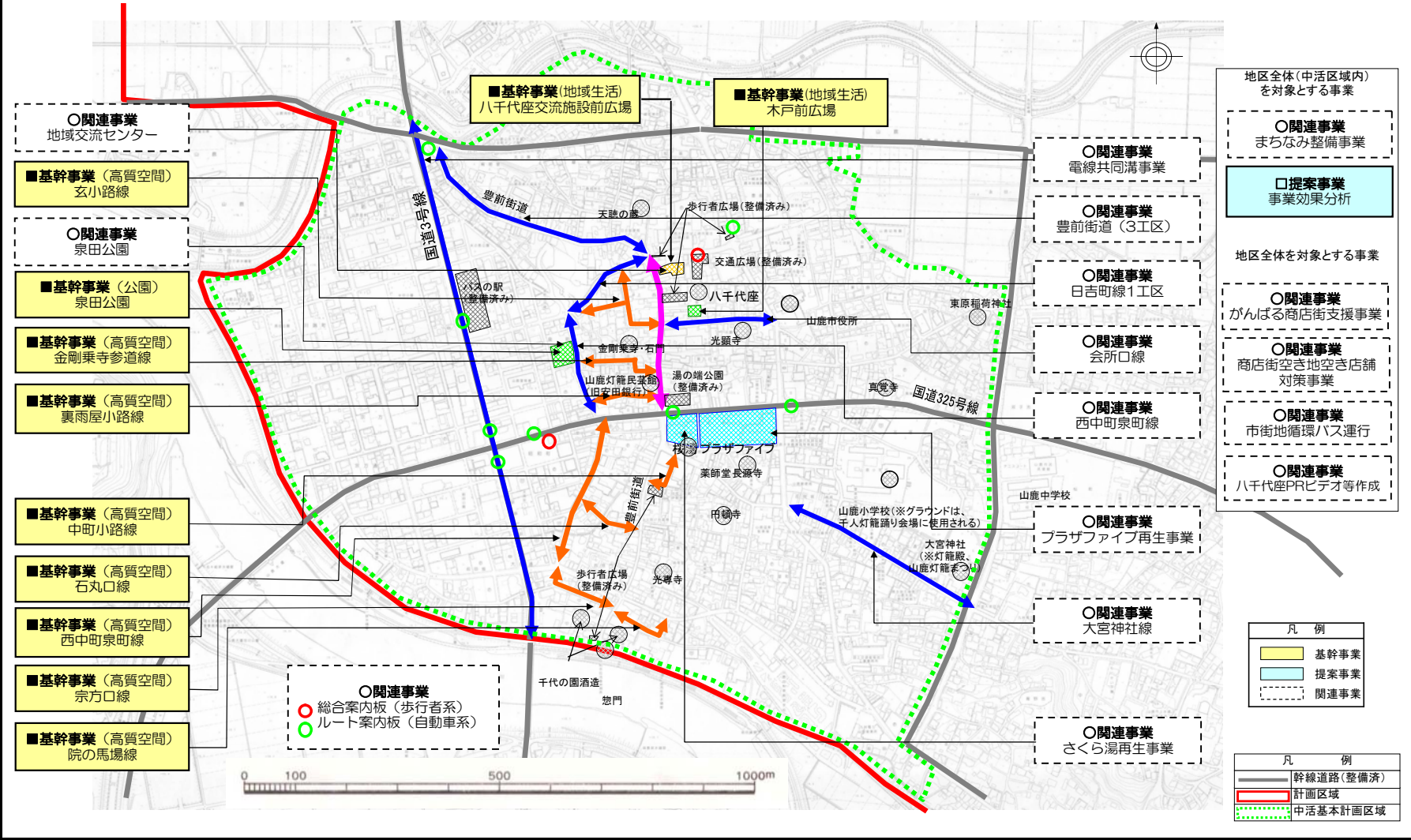
交付対象事業費	319	交付限度額	137	国費率	0.431
---------	-----	-------	-----	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度						
道路														
公園		泉田公園	市	直	A=1,515㎡	H21	H23	H21	H23	46	46	46		46
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		—			—									
地域生活基盤施設		木戸前広場	市	直	—	H21	H24	H21	H24	7	7	7		7
地域生活基盤施設		八千代交流施設前広場	市	直	—	H24	H24	H24	H24	21	21	21		21
高質空間形成施設		—	市	直	—	H20	H24	H20	H24	228	228	228		228
高次都市施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										302	302	302	0	302
…A														
提案事業														
事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造支援事業	まちなみ整備事業	建築物修景整備事業	民間	間	3件	H20	H24	H20	H20	24	24	5	19	5
	がんばる商店街支援事業	施設整備・イベント支援事業	商店街	間	6件	H20	H24	H20	H20	5	5	1	4	1
	山鹿市商店街空き地空き店舗対策事業	新規開業者支援事業	商店街	間	17件	H20	H24	H20	H20	9	9	4	5	4
		市街地循環バス運行	市街地循環バス運行事業	バス事業者	間	17.8km/1便	H20	H25	H20	H20	8	8	4	4
事業活用調査	事業効果分析	—	市	直	—	H24	H24	H24	H24	3	3	3		3
まちづくり活動推進事業														0
合計										49	49	17	32	17
													合計(A+B)	319
…B														

山鹿中央地区(熊本県山鹿市) 整備方針概要図

目標	八千代座を中心とする豊前街道山鹿温泉界隈の歴史的町並みの魅力を活かした、中心市街地の賑わいと交流のあるまちづくり	代表的な指標	八千代座入場者数 (人/日)	76,380人/年 (18年度) → 82,000人/年 (24年度)
			歩行者通行量 (人/8h)	4,426人/8h (19年度) → 4,500人/h (24年度)
			空き店舗数 (店舗)	62店舗 (18年度) → 25店舗 (24年度)



- 地区全体(中活区域内)を対象とする事業
- 関連事業 まちなみ整備事業
- 提案事業 事業効果分析
- 地区全体を対象とする事業
- 関連事業 がんばる商店街支援事業
- 関連事業 商店街空き地空き店舗 対策事業
- 関連事業 市街地循環バス運行
- 関連事業 八千代座PRビデオ等作成

凡例	
■	基幹事業
□	提案事業
○	関連事業

凡例	
—	幹線道路(整備済)
—	計画区域
...	中活基本計画区域